

労働災害再発防止対策書（記載例）

1 災害が発生した作業		例) 2 歳馬を騎乗して馴致していた 例) 集牧後、厩舎に曳馬していた
2 発生した災害の内容		例) 急に馬が暴れ、落馬し肩を脱臼した 例) 馬が驚いて立ち上がり、頭を叩かれた
3 原因の確認		以下を参考に、災害の発生原因や、これまでの対策に改善すべき点がないかを検討してください。 ○馬に関する原因 例) 暴れやすい馬・神経質な馬であった、扱いが難しい馬であることが共有されていなかった、等 ○人に関する原因 例) 馬の扱いに問題があった、馬の扱いが統一されていなかった、受け身や退避行動が取れなかった、保護具の着用状況に不備があった、等 ○環境に関する原因 例) ハローがけが不十分で馬が躓きやすい状態であった、周囲での作業をしていたため馬が驚いた、集放牧ルートに相性の悪い馬がいた、等 ○着用していた保護具が適正であったか。 (使用保護具 種類・メーカー名)
4 リスクの見積り	重 篤 度	× (×致命的・重大 = 中程度 ○ = 軽度)
	発生可能性	× (×比較的高い 時々ある ○ = ほとんどない)
	リ ス ク	= 直ちに解決すべき又は重大なリスクがある。 = 速やかにリスク低減措置を講ずる必要のあるリスクがある。 = 必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。
5 リスク低減対策		上記「3 原因の確認」において挙げた原因について、具体的な対策案を話し合った上で、リスク低減対策を決定してください。 ○馬に関するリスク低減対策 例) 馬の特性についてノート、ホワイトボードにより全員で共有する。 特に扱いの難しい馬は熟練の職員が扱う、二人体制で扱う。 ○人に関するリスク低減対策 例) 馬の扱いの問題点の改善のため、実演を交えた講習を行う。 安全会議等の場で馬の扱いについて統一することを呼びかける 保護具の着用状況について責任者が確認する ○環境に対するリスク低減対策 例) 馬が驚く可能性がある作業が周囲で行われる場合には全員に周知する。 凍結防止のため適宜ハローがけを実施する。 相性の悪い馬が接近しないよう集放牧ルートの見直しを行う。 検討する内容については、別添の「災害防止対策の検討項目例」も参考にしてください。
6 措置後のリスクの見積り	重 篤 度	○
	発生可能性	
	リ ス ク	
7 残存リスクが有る場合、その対策		例) 落馬時や馬が暴れた際の受け身・退避行動について、実演を交え教育をする。 例) 曳馬の際にもヘルメット、プロテクター、安全靴を着用する。

(注意)
低減対策のとり方によって、リスクは変化します。
別紙「リスクの見積り方法」の表の「リスク低減の優先順位」を参考
原則、リスク になるように対策を施します。

検討会議の留意点

○事業の代表者として労働災害を減らす意志表示

代表者が参加し、「安全第一」の意志を示してください。

作業や職種毎等に責任者を決め、労働災害防止について管理責任があることを確認。

○検討会議について

- ・ 会議の参加者は、半数以上が被災者と同種の作業を行っている人が望ましいです。
- ・ 参加者が、自由に発言しやすい人数に調整してください。
- ・ 外国人が怪我をした場合には、外国人も参加の上での実施が望ましいです。
- ・ 経験年数の少ない人から多い人まで幅広く参加いただくことが望ましいです。
(経験の少ない人も、経験者の発言を聞いて学ぶことができるため)
- ・ 女性にも積極的に意見を出してもらってください。(男性と違い力が弱いため、力で扱うのではなく、馬側に立った方法を普段から行っている場合があるため)
- ・ 以前にも同種災害の再発防止対策を検討したことがある場合は、今回の災害では前回の再発防止対策の有効性、決め事が守られていたか確認し、対策を検討してください。

○原因が良くわからない場合

被災者又は目撃者、状況を知る関係者等に、発生した状況を直接確認してください。

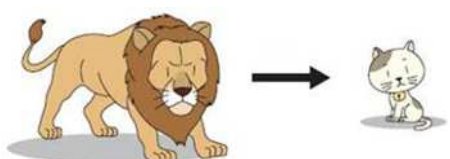

災害の被災者だけではなく、見ていた人、馬の情報を良く知っていた人等にも確認を行うと違う視点から、新たな情報が得られることもあります。

特に、経験不足の人や外国人の場合、原因が十分に確認されず、原因に対し必要な対策となっていない場合があります。

リスクの見積もり方法

発生可能性	重篤度	致命的・重大 × ・死亡又は身体の一部に永久的損傷 ・1カ月以上の休業災害	中程度 ・1カ月未満の休業災害 ・一度に複数の被災者	軽度 ・不休災害やかすり傷程度のもの
頻繁・可能性が高いか比較的高い × ・頻繁に発生するもの ・かなりの注意力でも災害につながり、回避困難なもの				
時々・可能性がある ・非定常作業で、時々発生するもの ・うっかりしていると災害になるもの				
ほとんどない・可能性がない ・滅多に発生することがないもの ・通常の状態では災害にならないもの				

リスク低減の優先順位

1 法令に定められた事項の実施(該当事項がある場合)	2 設計や計画の段階における危険性又は有害性の除去又は低減	3 物理的対策	4 管理的対策	5 個人用保護具の使用
必ず実施	危険な作業の廃止・変更、危険性や有害性の低い材料への代替、より安全な作業方法への変更等	防護板の設置、作業台の使用等	マニュアル整備、教育訓練、作業管理等	保護帽、安全带、防護マスク等
				

「安全」とは『許容できないリスクがないこと』(ISO/IEC ガイド 51:2014)です。